■　学校の共通目標

（様式1）

学力向上のための重点プラン【小学校】　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　新宿区立余丁町小学校

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **授業づくり** | 重　点 | 学習過程の各段階に適した「学び合い」の場を工夫して設定し、一人一人  の参加を図るツールを工夫し、学びの共有化と深化を図る。 | 中間評価 | 学び合いの場の工夫としての思考ツールの活用により、対話が生まれ学びの共有化が図れている。 | 最終評価 | 学習場面での話合いの場の設定や交流や思考ツールの活用を通して、対話を通した学びの共有化と深化が図られた。 |
| **環境づくり** | 多様な交流の場を設定し、相互評価等、児童相互がよさを認め合い高め合う活動を工夫し、支持的風土を醸成する。 | 言語活動を重視し、交流する場を意識的に設定することで互いに認め合う支持的風土ができつつある。 | 多様な交流の場を設定したことで、言語活動が充実し、児童相互の理解が深まり、支持的風土が形成された。 |

■　学年の取組み内容

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **学年** | **教科** | **学習状況の分析（10月）** | **課　題（10月）** | **改善のための取組み（10月）** | **最終評価（２月）** | |
| １ | 国語 | 学・示された話型に沿って、話すことに慣れてきた。声が小さく自信がない様子の児童も見られる。  　・集中して、話を聞いたり読んだりして内容を理解することには個人差がある。  　・作文は、書きたいことを書けるようになってきたが、助詞や、促音、拗音の正しい記述が、まだ十分に身に付いていない。平仮名、片仮名は字形の特徴をつかみ、正しく書けるようになってきた。 | ・話を聞き、大事なことを聞きとること。  ・大きな声で、はっきり話すこと。  ・問われていることを理解して、文を読み取ること。  ・学習した文字を正しく丁寧に書くこと。 | ・読み聞かせや聞き取り練習などを日常的に行い、集中して聞く機会を多くもつようにする。  ・声の物差しや口の開け方を適宜示し、良い話し方をしている児童に注目させることで、自分の話し方の改善につなげる。  ・指で押さえながら読む、大事な箇所に線を引かせる、挿絵に注目させるなど、課題の与え方を工夫する。  ・毎日、書き取りの宿題を出し、丁寧に書けるよう、繰り返し練習させる。 | ・話し手の方を見て聞く習慣がつくよう、繰り返し指導してきた。姿勢を正すことで「聞こう」という意識が高まり、内容を良く聞き取れるようになってきた。しかし、個人差も大きく、聞き洩らしや聞き返しも多い。一方、毎日の１分間スピーチの実施により、大勢の前で話すことへの抵抗感は薄れてきた。  ・示された文章と自分の記憶を混同してしまう面が見られるため、声に出す、指でたどる、アンダーラインを引くなど手を使って読む機会を増やした。だんだんと大事な箇所を見付けることができるようになってきた。  ・ひな型を示しそれに沿って書くことで、ある程度のまとまりのある文が書けるようになってきた。児童によっては、題材を見つけることが難しかったり、内容が整理されていなかったりすることも見られるため、今後も個別指導が必要である。  ・宿題等の日々の積み重ねにより、漢字はよく定着している。字形の特徴をとらえ、適切な筆圧で丁寧に書けるようになった。 | |
| 算数 | 学・たし算、ひき算の計算方法を理解し、正しく計算できる児童が多い。  　・問題場面を理解し説明したり、自分の考えを相手に分かるように説明したりすることは、個人差が大きい。 | ・計算の速度に差が見られる。  ・問題をよく読み、課題を正しくとらえること。  ・自分の考えを相手に分かるように説明しようとすること。 | ・毎日、計算の宿題を出し、習熟を図ることができるようにする。  ・「分かっていること」「聞かれていること」を確かめながら問題を解くようにさせる。  ・絵や図などを用いて、自分の考えを表したり、１対１で説明し合う機会を多くもつようにする。 | ・繰り上がりのあるたし算、繰り下がりのあるひき算、大きな数の計算では９割の児童が計算方法を理解し、正しく答えを求めることができるようになった。また、計算速度も上がってきている。  ・下線を引きながら問題を読むことで、「分かっていること」「「聞かれていること」を多くの児童が読み取り、立式できるようになった。問題文の中に数値が表れない場合など、思考力が問われる文章題に対しては、問題の意味をを理解できず正しく答えを導き出すことが難しい。求答の手助けとなる図を使いこなせるよう多くの問題に当たり、図をかくことに慣れることが必要である。  ・自分の考えは多くの児童が絵や言葉を用いて表そうとしているが、相手に分かるような説明ができる児童はまだ一部である。 | |
| **学年** | **教科** | **学習状況の分析（４月）** | **課　題（４月）** | **改善のための取組み（４月）** | **中間評価・追加する取組み（10月）** | **最終評価（２月）** |

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| ２ | 国語 | 学・学習意欲は高いが、すすんで発言する児童の個人差がある。  ・「話すこと」に関しては、抵抗なく話す児童が多いが、「いつ・どこで・だれが・なにをした」のように具体的に話したり、相手を意識して話したりすることに課題を感じる児童が多い。  ・音読はすすんで取り組むが、文章の読解では、叙述に気を付けて読み取ることができる児童と、そうでない児童に分かれる。  ・日記や作文を継続的に取り組んできたため、書くことには慣れてきたが、既習の漢字を用いることや、助詞の使い方や句読点の打ち方などを含め指導が必要である。また、内容や書ける量にも個人差が見られる。 | 学・漢字や文を丁寧に正しく書くこと。  ・相手を意識して話したり聞いたりすることができること。  ・身近なことの中から、書くことの題材を見付け、相手に分かるように具体的に書くこと。 | ・漢字の成り立ちや由来なども触れさせ、関心を高める。書くポイントを明確に示したり、日常から、丁寧に書けた字を認めたりして、意欲につなげる。  ・話す内容を具体的に示したり、友達の考えや発表を聞き感想を述べたり、自分の考えと比べたりできるような投げかけを意図的にしていく。  ・題材が見付けられない児童には、例文を示したり、モデルとなる文を紹介したり文を書くことの経験を増やす。 | ・漢字への関心が高まり、漢字の学習方法が定着した。丁寧に学習している児童を認め、定期的に小テストを実施したり、苦手なところを重点に指導したりしたことにより児童一人一人の意欲を高め、取り組みを継続させることにつながった。  ・朝のスピーチや国語の発表などで手本となる児童を評価したり、話し方を提示したりすることで自分の思いを表すことができるようになってきた。聞くことに関しては、相手を意識して聞くことができる児童と、そうでない児童との差が表れているため、関心をもって聞ける工夫をしながら指導をすすめていく。  ・定期的な日記や感想文などで自分の思いを文章に表わすことができる児童が増えてきた。構成を考えた文章が書ける児童がいる一方、主語と述語が呼応していない文章や構成などが整っていない児童もいるので、引き続き例文などを示し指導をしていく。 | 学漢字への関心が高まり、繰り返し練習することで漢字が定着してきた。だんだんと画数が多くなり、複雑になってきているので、とめ・はね・払いだけでなく、出るところと、出ないところなどの細かなところも注意していけるように指導をし、正確に書けるようにしていくことが必要である。  調「読むこと」の領域が全体的に低い。自分なりの解釈で読み進めている児童もいるため、問われていることや、場面や心情をよく読み取り、確認しながら学習をしていくことが課題である。  学「話すこと・聞くこと」では、スピーチや話し合いを充実させたことで、自分の思いを表現できるようになったが、話を最後まで聞くことや、聞いたことをしっかりと自分で理解することが不十分である。テストだけでなく、日常的から話を最後まで聞き、聞いたことを自分の言葉で伝えられることができるようにしていくことが課題である。  学主述を意識して文を書くことができてきた。正確に書く力や内容に関しては、個人差がだいぶ出てきている。苦手な子には、個別指導をし、少しずつ自分の考えを表せるようにしていく手だてが必要である。 |
| 算数 | 学・ＩＣＴ機器を活用し、ノートやワークシートの使い方を具体的に示すことで、支援が必要な児童の理解が進み意欲が高まってきた。また、パワーポイントなどで作成した動画を見せ、視覚的にとらえさせることで、意欲や定着につながっていった。自分の考えをノートに意欲的に書く児童が増えた一方、自分の考えを示すことが難しい児童がいる。計算は、多くの児童が定着しているが、問題文については、問題の意味を正確に捉えて立式や答えを書く指導が必要である。 | 学・繰り上がりのたし算、繰り下がりの引き算などの計算力（速さ）。  ・問題文を正確に捉え、立式と答えを正しく書き、とくこと。 | ・繰り返し計算を行ったり、既習事項の学習を行ったりすることによって定着を図る。家庭学習でも計算練習に取り組ませ、力を付けさせる。  ・ＩＣＴ機器を活用して視覚的に捉えさせたり、「分かっていること」「聞いていること」に分けて考えさせたりして理解の定着を図る。 | ・繰り返しの計算練習や時間を計っての練習などを取り入れたことによって計算力が身についてきた。  ・問題文を正確に捉えて理解することが難しい児童に、声に出して問題を読み把握させていき、何を問われているのかを把握させていく。  ＩＣＴ機器を活用し、視覚的に捉えさせたことが、意欲や理解につながった。 | 調全体的にどの領域も平均的に見て、知識・理解は身に付いているが、個人差が大きくなっている。  ・理解の定着が低い児童や知識は伴っていても活用や考え方の応用力が身に付いていない児童がいるため、繰り返し問題文を読み、何が問われており把握させていくことが課題である。  学計算に比べ、量と測定が弱い傾向になる。視覚的に捉えさせ、感覚をつかめるようにさせていくことが必要である。 |
| ３ | 国語 | 調２９年度は、「書く能力」の領域が全国平均を上回っていたが、「話す・聞く能力」の領域では、全国平均、区平均ともに２～５ポイント程下回っていた。  学漢字の読み書きに関して課題が見られる。 | 調「話す・聞く」能力を伸ばすこと。  学漢字の読み書きを定着させること。 | ・話を聞いたり、発表したりする活動を行う際には、大切なことを落とさず聞くことや、相手にわかりやすく伝えることなど、毎回ポイントを確認し、意識付けをする。  ・友達の考えを聞いたり、自分の考えを話したりする場面を意識的に設定する。  ・読書の機会を増やし、言語活動を広げる。  ・ノートやワークシートに書く際は、既習漢字を使うようにさせる。 | ・話を聞いたり発表したりする活動を行う際に、ポイントを伝えたことによって、ポイントを意識して活動する姿が見られた。  ・考えを聞いたり話したりする場面を多く設定したことによって、話すこと・聞くことに慣れ積極的に発信・受信する姿が見られた。伝えるために工夫を凝らす姿も見られた。  ・１学期より定着していると感じる。２学期から始めた毎週の漢字ミニテストをこれからも続けていく。 | 調　課題の一つであった「話す・聞く」の領域は、全国平均、目標値とも上回った。  ・もう一つの課題である「書く」の領域は平均より下回ってしまう結果となり、課題が残る。  学　・３年生では報告文や紹介文を書いたが、苦手意識をもっており、すすんで取り組めない児童が多い。大事なことがしっかりと伝わるような構成の型を示し、書くことに十分に慣れさせたい。書くことへの苦手意識をなくし、自分の思いを伝える文章構成へとつなげていきたい。  ・漢字の理解に関しては１年間で大きな成長が見られた。ただ、個人差が大きいので、苦手な児童に対しては個別に課題を出すなどし、底上げを図る。 |
| 算数 | 調２９年度は全体的に、全国を１０ポイント、区を１ポイント上回っていた。領域別にみると、「関心・意欲・態度」「数学的な考え」「知識・理解」の領域は上回っているもの、「数量や図形の技能」では、区を１．３ポイント下回っていた。  学個人差が大きく、下位層の児童の中には、九九が十分に定着していない児童が見られる。 | 調「数量や図形の技能」の領域の学力を定着させること。  学九九を定着させ、底上げを図ること。基礎基本を確実に身に付けさせること。 | ・計算練習や、作図の反復練習を行い、技能面を確実に身に付けさせる。多くの問題に取り組ませるようにし、そのために短時間で行える問題に継続的に取り組ませる。  ・基礎基本の定着が不十分な児童を休み時間などによび、暗誦テストを行うなどし、九九を確実に定着させる。また、一学年下のプリント等を使い、基礎基本を確実に定着させる。 | ・計算ドリルを繰り返し行ったことにより、計算力がついた。作図に関しては、計算問題同様、多くの問題に取り組ませる。  ・一部の児童が完全に定着したとはいいにくい状態である九九の暗誦テストについて、引き続き指導する。昨年度の既習のプリントも使って、引き続き指導する。 | 調・全国平均については上回っているが、ほとんどの領域で目標値を下回っている。  ・特に大きく下回っている領域は、「数と計算」で、観点は「技能」である。  ・個人差が非常に大きく、度数分布表が二極分化型になっている。正答率４０％以下の児童は全体の１５％もいる。  学・大きい数のたし算やひき算、かけ算、わり算の基本的な計算技能に大きな個人差があり、課題が残る。下位層の児童は九九の理解が十分ではなく、わり算で活用することができていない。引き続き、２年生の復習を行うことと、短時間で行える計算問題を継続する必要がある。 |
| ４ | 国語 | 調平成29年度は、全ての領域で全国・新宿区の正答率を上回っていた。Ｃ層とＤ層の児童を合わせると、全体の２５％だった。  学ノートやワークテストを見ると、適切な漢字を使ったり、自分の考えを短く文章でまとめたりすることが十分に定着していない状況が見られる。 | ・相手や目的を意識して文章を書くこと。  ・生活の中で書く活動が少ないこと。  ・語彙が少なく、適切な言語表現ができないこと。  ・漢字の読み書きや、言葉のきまりを理解すること。  ・主述を理解して、叙述を捉えること。  ・伝えたいことを分かりやすく、はっきり話すこと。  ・ねらいを明確にした指導。 | ・文章の組み立てを意識させ、短い文を書く機会を増やす。  ・言語事項の指導を、意識的に取り入れる。継続した家庭学習及び小テストを実施し、定着を図る。  ・国語辞典、漢字辞典を使い、言葉の意味を調べさせ、定着を図る。  ・文章の読み取りでは、主述を明確にさせたり、考えの根拠となる表現を押さえさせたりしながら読む学習を、取り入れる。 | ・週1回、短作文を書く取り組みを続けている。書くことに対する苦手意識がある児童も多いので、書く意欲がもてる題材を提示する。また、文章の構成や文法など指導事項を明確にする。  ・定期的に漢字テストを実施し、反復練習に取り組ませ、日常的に既習漢字を使うようにさせる。国語辞典がいつでも手に取れる環境にすることで、児童が自主的に使うようになった。  ・読み取ったことを友達と交流することにすすんで取り組むことのできる児童が増えた。継続し、学び合いを大事にした学習活動を展開していく。 | 調・全ての領域で全国正答率と目標値を上回っている。  ・７０％の児童が正答率８割以上に達しており、概ね良好な結果である。  ・話し合いの内容の聞き取り、物語の読解、作文、言葉の学習がいずれも全国の正答率を上回っている。  ・前学年の既習漢字を書く力が弱い結果となっている。  学・短作文や読み取ったことを交流する学習活動を継続したことで一定の成果が上がったと考えられる。  ・漢字を書く力や作文については個人差が大きく表れているので、個人に合った課題設定や反復練習が必要である。  ・日頃の学習状況からは、伝えたいことを明確にした文章を書くことや文章を要約することを苦手と感じている児童が多く見られる。文の構成についての理解を深め、要点が明確な文章を書く力を付けさせることが課題である。 |
| 算数 | 調平成29年度は、全ての領域で全国・新宿区の正答率を上回っていた。Ｃ層とＤ層の児童を合わせると、全体の２７．５％で前年よりも増加した。「量と測定」領域の学力は定着が見られた。  学個人の差が大きく、また、領域により理解度に差が見られる。学習課題に対する考え方を表現することに課題が見られる。 | ・問いから、「分かっていること」と「聞かれていること」を明確に把握すること。  ・反復練習や類似問題を解くこと。  ・理解が十分ではない児童が、授業内容の理解できるように、補充したり、習熟度別の授業を工夫したりしていくこと。 | ・ノートの書き方を統一し、学習問題やまとめ、学習感想などを、毎時間整理して書くようにする。  ・問いの文にアンダーラインを引くなど、何が分かっているのか、何を聞かれているのかを明確にして、解決に取り組ませる。  ・学習感想や習得状況を把握するため小テストを取り入れる。  ・家庭学習を設定し、学習した内容を習得するための習慣づくりを行う。  ・ユニバーサルデザインの視点に立ち、習熟度に応じた適切なねらいを設定する。 | ・学習したことや気付いたことが分かるノートの書き方が定着してきたが、個人差が見られる。どの児童にも分かりやすく提示する必要があり、ユニバーサルデザインの視点を取り入れて授業をおこなっていく。  ・家庭学習は定着してきたが、基礎となる計算力を確実にするためには、朝学習などの時間も活用し、反復練習を通して身に付けさせていく。  ・教え合いや学び合いを通して、児童同士が考えを伝え合う場面を意識的に取り入れることで学習活動が活発になってきた。 | 調・殆どの領域で全国正答率と目標値を上回っている。  ・６０％の児童が正答率８割以上に達しているが、個人差が大きく見られる。  ・計算のきまりやわり算の筆算などの計算力は良好であるが、数の意味、文章問題の思考力、作図に課題が見られる。  学・日頃の学習状況からは、反復練習により計算力は付いたが、図形の知識・理解や作図、分度器の使い方などに課題が見られる。生活の中で経験を積むことが少ない内容なので、意図的に学習活動に組み込み、作図や測定に習熟させることが重要である。 |
|  |  |  |  |  |  |  |
| ５ | 国語 | 調昨年度の新宿区の学力調査では、全国平均よりも４．３ポイント、区平均よりも１．６ポイント上回っているが、正答率が５０％以下の児童が１０％ほどいる。学力下位層の底上げが必要な状況である。  学ノートやワークシート等を見ると、習った漢字を使って文章を書くことが苦手な児童が多い。  文章から自分の考えをもち、表現することに課題が見られる。 | ・１～４年生までの既習漢字、５年生での新出漢字の確実な定着。  ・文章の読み取り方を理解し、自分の考えをもつこと。  ・自分の考えたことを表現する力。 | ・文を書く活動を多く取り、既習漢字を使う習慣をつける。毎週の漢字テストでは、新出漢字だけでなく既習漢字にも意識を向けて練習できる教材を使用する。  ・叙述に基づき、文章を読み取ることを定着させる。どの叙述から、考えをもったのかを明確にさせていく。  ・自分で考える時間に重点を置き、その後に交流活動を設ける。考えを広げ、表現できるようにする。 | ・今年度行った都の学力調査では全体として都の正答率を上回っているが、「書く」力においては都の平均を3.9ポイント下回っている。  ・国語を中心に、他の教科においても書く機会を増やす。国語では書く内容のポイントを明確にし、文章構成等を指導しながら、繰り返し書く活動に力を入れていく。  ・どの叙述から考えをもったかを明確に説明させる活動を取り入れ、力を付けてきている。引き続き、様々な文章を読み取る活動を通し、要点や要旨をおさえられるようにしていく。  ・引き続き漢字テストでは、新出漢字の練習に加え、既習漢字の練習を行う。週１回のテストを目標に継続的に漢字練習を行うことができるようにする。  ・交流活動を引き続き行い、様々な考え方や感じ方があることに気付かせ、集団で学ぶ楽しさを感じさせていく。 | 調今年度の新宿区の学力調査では、全国平均よりも３．７ポイント、区平均よりも１．０ポイント上回っているが、昨年度よりもポイント低下している。  ・全体として区の正答率を上回っているが、「書く」力で区の平均を下回っている。書く単元の学習では、ポイントや手本を示しながら、書き方の基本を身に付けさせていく。また繰り返し書くことで、文を書くことへの抵抗を減らしていく。  学・漢字テストで既習事項も含め練習を行うことで、漢字が定着している様子が見られた。  ・叙述に着目して考えを説明させることで、文章を丁寧に読む児童が増えた。同時に要点や要旨の捉え方をつかみ、自分なりの考えをもてる児童が増えたが、自分の思いで読み進めてしまう児童もいるため、繰り返しの指導が必要である。 |
| 算数 | 調昨年度の新宿区の学力調査では、全国平均よりも２．９ポイント上回ったが、学力下位層の底上げや中間層の知識・技能の定着を図る必要がある。  学知識がある児童は多いが、数学的に説明をしたり、応用して考えたりすることに関しては課題がある。 | ・既習事項の定着。  ・公式や計算の仕方だけを覚えるのではなく、そこに至るまでの考え方を表現する力。 | ・家庭学習や朝学習の時間を活用し、既習事項を確実に定着させる。  ・習熟度別授業では、それぞれの児童の理解度に応じた指導をする。下位層の児童にはその時間に理解させたい内容を精選し、明確にする。中間層上位層の児童には、知識だけはなく、数学的な表現力・思考力を伸ばすために学んだことを説明できるようにする。 | ・今年度行った都の学力調査では算数全体において都の正答率を上回っており、概ね良好な結果であった。しかし下位層の児童が増えているため、学力の底上げが必要である。学力の底上げのために、その時の学習内容だけではなく、既習事項や四則計算の確実な定着を図る。家庭学習で繰り返し計算ドリルに取り組む機会をつくる。  ・学級算数では、互いに考えを伝え合ったり、教え合ったりする活動を取り入れる。理解している児童は説明することでより理解を深め、理解が難しい児童は全体指導の他に友達からの説明を個別に聞くことで理解を深められるようにする。 | 調・昨年度の新宿区の学力調査では、全国平均よりも１．６ポイント上回ったが、区の平均を１．０ポイント下回っている。正答率５０％に達しない児童が３割近くおり、学力の底上げが必要である。  ・学力の底上げには基本となる四則計算の定着が必要である。繰り返し基礎計算ができるよう練習する機会をつくる。  ・「数量関係・図形」で低いポイントが見られた。子どもたちの図形に触れる経験も乏しいため、実物に触れながら、実体験を通して理解を深めていく必要がある。  学知識がある児童が多く、技能面では理解できているが、「活用」の部分でポイントが低下している。文章を丁寧に読み解く力が必要と考えるため、繰り返し課題に取り組み、丁寧に解いたり、解く過程を説明したりする活動を多く取り入れる。 |
| ６ | 国語 | 調昨年度の新宿区の学力調査では、観点別・領域別ともに、区の平均を3～１２ポイント上回っているが、他の観点に比べ、話すこと・聞くことの能力が相対的に低く、重点化する必要がある。二極化傾向にあった分布は、中間層から上位層に移行する児童がいる一方で、下位層の割合が変わっていない点が課題である。基礎的・基本的な内容の習得を図ることができるような手立てが必要な状況である。  学先行知識のある児童が多い中で、読み取ったものを説明したり、筋道を立てて文章構成したりすることに関しては課題がある。 | ・確実な読み取りのための読解力。  ・話し方・聞き方を理解し、表現する力。  ・既習の漢字の確実な定着。 | ・叙述を捉える視点を明確にした指導を行い、根拠となる語句を適切に押さえられるようにする。また、主述や修飾・被修飾など、言葉の呼応や関連を意図した指導を行う。  ・構成を明確にした簡潔に話す指導を行うとともに、メモの指導を行い正確に聞く力の育成を図る学習を位置付ける。  ・漢字テストでは新出漢字だけでなく既習漢字にも配点をし、繰り返し活用したり、振り返ったりできるようにする。 | ・今年度行った全国学力調査の結果では、全体で見ると都の平均より1ポイント低い結果となった。特に「書くこと」については6ポイントほど下回っている。「書くこと」については引き続き定期的に百文字作文を取り入れ、書くことに慣れさせていく。  ・文章から要旨を捉える学習を取り入れ、並列に物事を捉えるのではなく一番伝えたいことは何か、話の順序や話の中心を意識して文章を読めるように指導する。また、それらの学習を読むことから書くことにつなげ、自分自身の考えを述べる際にも構成を意識できるよう指導する。  ・漢字については、毎週行っている十問テストの成果が表れてきている。練習を積み重ねることで児童が漢字を身に付けられるようにする。 | 調・今年度の新宿区の学力調査では、全国の平均を4.5ポイント、区の平均を3.8　ポイント上回った。内容別の正答率を見ると、「漢字を読む」では区の平均を1.6ポイント下回り、「意見文を書く」では区の平均を1.1ポイント下回った。  ・全体を見ると、全国や区の平均よりも上回っているが、「言語」と「書くこと」について課題がある。特に、「書くこと」については、理由や事例を挙げて文章を書く「作文」は書くことができるが、課題に対して自分の意見を明らかにして書く「意見文」についてはポイントが低くなっている。課題に正対して自分の意見を書く練習が必要である。  学・漢字の学習は、短期的に練習を重ねた部分については確実に書くことができるが、自分の知識として身に付け、いつでも漢字を活用して書けるように、日ごろのノート指導が必要である。また、広い範囲での実力テストも定期的に必要である。  ・説明文や物語文を読みながら、自分だったらどう考えるか第三者の視点で物事を見て考えられるようにする経験を積む必要がある。また、求められていることに正対して意見を書くことができるよう繰り返しの指導が必要である。 |
| 算数 | 調昨年度の新宿区の学力調査では、すべての観点・領域で新宿区の平均を4～１０ポイント程度上回っており、概ね良好な状況といえる。全体的には、課題であった二極化傾向も解消されつつある。既習事項の習得が不十分な下位層の児童の底上げを図ることが継続した課題である。  学先行知識のある児童が多い中で、自らの考えの根拠を数学的に説明したり、応用して考えたりすることに関しては課題がある。 | ・既習事項の定着。  ・公式や計算の仕方だけを覚えるのではなく、そこに至るまでの考え方を表現する力。 | ・単元の系統を踏まえた復習を取り入れるなどして、基礎・基本の定着に重点を置いた指導を展開する。  ・単元の中に思考力を育む内容と知識・理解として定着させる内容、習熟を図る内容を明確にし、意図的に設定する。習熟度別の利点を生かし、解決のために必要な既習の内容を、例えば解決のヒント内包形の問題提示にするなど工夫をし、確実に表現できるようにする。 | ・今年度行った全国学力調査の結果では都の平均より８ポイント上回っており、概ね良好な結果であった。しかし以前も課題であった二極化傾向がまだ見られる。問題の意味が理解できず解けなかった児童もいる。文章問題では、何が問われていてどんな情報が示されているのかを一つずつ把握できるよう日々の授業でも指導していく。  ・図形については、見方を変えて図形を見たり、図形の性質を捉えたりする活動を授業の中でも大切にしていく。  ・基本的な内容を定着させ、その考えをもとに発展的な問題にも取り組めるようにしていく。  ・授業の中で、お互いに考えを伝え合ったり教え合ったりする活動を大切にする。どうしてそのように考えたのかを友達同士で伝え合うことで、より自分の考えを明確にし学習の定着を図っていく。 | 調新宿区の学力調査では、区の平均より0.2ポイント下回った。活用問題では区の平均よりも0.1ポイント上回っているが、基礎問題では0.3ポイント下回った。内容別に見ると、「分数のかけ算・わり算」「面積と体積」「対称な形」「文字と式」である。「基礎的な計算」や「図形」に課題があると考えられる。  学・基礎的な計算では、授業で復習をしていても分数の計算でつまずく児童が多い。通分や約分がどの場面で必要になるのかをきちんと理解できていない児童もいるので、中学校の学習につなげるためにも、確実に解けるように繰り返し計算練習を行う。  ・図形の問題では、面積と体積の違いを理解できるように、空間認知が苦手な児童には具体物を使って説明する。  ・問題で何を聞かれているのか分からずに取り組むことができない児童もいる。問題に線を引いたり、文章に書かれていることを図で表したりするなど、解くための手だてを身に付けさせていく。 |
| 音楽 | 学正しい発声や姿勢を守って美しい歌声で歌唱することができる。また、2部合唱や掛け合いなどのハーモニー感が身についている児童が多く、すすんで難しい歌唱曲にも取り組んでいる。器楽も意欲的に興味を持って各学年の曲や練習曲を学習している。 | | 学音符や楽典などの、楽譜をよむ技術を定着させること。 | ・新しい単元で曲を学習するたびに、フレーズごとに音符や階名などの確認をしながら練習を進めるようにする。  ・新出の記号等が出てきたときは既習事項を振り返りながら定着を図る。 | ・楽典の学習では、記号を中心に学習活動の中で今まで学んだことを生かしながら取り組むことができている。  ・音符や階名ではそれぞれの学年の発達段階に応じた曲を中心に学習を進め、リズム読みや階名唱を行うことでさらなる技術の向上を図りたい。 | ・音楽会で発表する曲を中心に学習活動の中で既習の音符や階名を復習しながら取り組めた。  ・各学年の発達段階に応じた曲を使ってリズム読みや階名唱による練習を取り入れ、振り返りをしたことで楽譜を読む技術の向上を図ることができた。 |
| 図工 | 学新しく学習する道具や材料に関して、意欲的に取り組み、児童が自分自身の思いに合わせて表現活動をすることができている。児童の多様な価値観を認め合う力を育むために、鑑賞活動を充実させていく。一方で、道具や材料の片づけ方に課題があるため、図工室を整備し、一目見れば片づける場所がわかるようにする。 | | ・使用したものを片づける力を育てる。  ・鑑賞活動の充実を図り、多様な表現があることを知り、表現する楽しさを感じさせること。  ・自分自身の思いを大切にした表現ができるようになること。 | ・ユニバーサルデザインの観点から図工室を整備し、片づけしやすいような環境をつくる。  ・造形遊びの時間を多く設け、体全体を使った表現活動も取り入れていき、表現する楽しさを実感できるようにする。 | ・それぞれの発達段階に応じた材料や用具の扱い方が定着してきた。特に、５年生で初めて使った彫刻刀に関しては大きな怪我もなく取り組むことができた。  ・片付けに関しては、意識する児童が増えてきた。きちんと環境整備を行いたい。  ・各学年と発達段階に応じての造形遊びを今後も意識していく必要がある。 | ・展覧会が行われ、他学年の作品や自分の作品を改めて鑑賞することで、造形表現に対する思いや、見方考え方をもつことができた児童が多かった。  ・鑑賞の充実を図ることで、友達の作品の良い点をたくさん見付けることができたと感じる児童が増えた。  ・共同作品づくりを通して、各学級や各学年、他学年とも深くかかわりをもつことができた。 |
| 特支 | 学療養等により欠席が多く、学習の定着度が十分でない児童が多い。個々の実態を把握し、個別の課題設定をして教材等を工夫して学習している。 | | 学既習事項の定着。学習を生活に活かす力。  　主体的に学び、自分の考えを伝える力。 | ・個別または小グループで、学習したことを体験的活動を通して定着を図る。  ・既習内容について、ミニテストを行い定着を図る。 | ・実態を考慮した小グループや個別で学習し、遊びなど共同して学べる機会を設けることで、生活場面を想起させることができた。  ・個に合わせてミニテストや復習課題に取り組み、定着を図っている。実態を把握して個別に対応していく。 | ・小クループで学習するだけでなく、下学年の添削をすることなどを取り入れたことで、上学年にとっても復習しながら学ぶことができた。生活場面から課題を提示し、また、まとめの学習等で生活場面を想起した課題に取り組むことができた。  ・個に合わせた復習課題に取り組むことで、個の定着度を上げることかできた。 |

　　　　　調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況　　学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況　　　※分量は2ページ以上となってもよい。